

保育実習指導における実習効果の改善に向けた取り組み — 実習指導テキスト作成をとおして —

丹羽 ヤエ子

(佐賀短期大学 幼児保育学科)

(平成21年 2 月 4 日受理)

**Approach for improvement of effect of practice in child care practice guidance
—It pushes with the practice guidance text making—**

Yaeko NIWA

(*Department of Early Childhood Education and Childcare, Saga junior College*)

(Accepted February 4, 2009)

Abstract

The practice is indispensable at the those who take care of a child training course. In study in the study period of only two years, it is various, and the necessity for the transformation of the nature of a rapid social change and the student is pressing needs. The child care practice guidance and the child care practice I・II to which the author is doing the class charge become the first experiences in a practice outside the school. "Practice guidance text and day-care center practice" of this original knowledge was made from such a viewpoint, and the edit suitable for student's needs was done.

This research is the one (the execution of the questionnaire survey of the class understanding and the effect of the class of the student who uses this text, and the verification). A student 100% near was obtained and a comprehensible result of the answer as being able understanding was obtained.

A further effect of the class will be achieved by using the text revised edition in the future.

Key Words: Practice guidance text 実習指導テキスト
Day-care center practice 保育所実習
School practice guidance 学内実習指導
Effect of class 授業効果
Anxiety of practice 実習の不安感

1. 緒 言

近年、人間形成の発達期にある幼児期においては豊かな知恵を享受できるような保育指導のあり方と、それを担う保育指導者の教育実践力の充実が求められている¹⁾。

また、急速な社会の変化や学生の資質の変容に対応し現状に沿った保育指導のあり方と内容に改める必要がある。

保育者養成校に在学する学生は、わずか2年間の修学年限の中で学習しなければならないため多様である。

保育士資格では、保育所、保育所以外の児童福祉施設及び関連施設での現場実習が必要な要件となっている(5単位)。保育士資格は平成15年11月29日に国家資格化され、保育士の専門性^{2) 3)}に関する質の向上に対する社会的要請はますます増大している。

本学の実習形態は、保育実習指導(保育所・施設)1単位(必修)、保育所実習Ⅰ(必修)2単位{附属保育園2日間+学外保育所8日間}、保育所実習Ⅱ(選択必修)2単位{学外保育所10日間(保育所実習Ⅰと同じ園)}、施設実習Ⅰ(必修)2単位、施設実習Ⅱ(選択必修)2単位となっている。附属保育園、附属幼稚園実習は1年次11月で終了し、保育所実習Ⅰ・Ⅱ(学外)は1年次2～3月(春休み期間中)に実施している。

平成16年の教科目改正で、「保育実習Ⅰ」4単位を「保育所実習Ⅰ」2単位と「施設実習Ⅰ」2単位に、「保育実習Ⅱ」2単位を「保育所実習Ⅱ」2単位に名称変更したことに伴い、「保育実習Ⅲ」2単位を「施設実習Ⅱ」に名称変更した。^{注)}

これまでの実習指導においては、必要に応じ随時プリントを配布し指導を実施していた。平成18年度に指導内容の集約と学生参加型を志向し、特に授業理解を深めることを目的として、新手法を取り入れた「実習指導テキスト」を編集し、1冊にまとめた。平成19年度1年次に通年で授業に活用し、授業終了後に学生に対してアンケート調査を行い、内容や授業効果について検討したので報告する。

2. 調査方法

2.1 調査の対象

本学の幼児保育学科1年次生(調査日に欠席した学生を除く)116名を調査対象とした。

2.2 実施方法と調査期日

本テキストを平成19年度(1年次生)4月から平成20年度4月(2年次生)まで使用した。4月の事後指導において、テキストを使用した実習効果等について、「実習指

導テキスト」の項目に沿って、テキストも見ながらアンケート調査を実施し、調査紙はその場で回収した。回収率は100%であった。(無記名で自由記述含む)

3. 結 果

3.1 「実習指導テキスト—保育所実習—」に関するアンケート調査(内容と結果)

(1) 本テキストの質問項目について

1 ・性別では男性15%、女性85%で、実習先県名を尋ねたところ、地元佐賀県が79%を占めていた。

・実習先園については出身園者が42%、出身園でない者は58%と、出身園者に比べて若干多かった。

2 1) テキストは役に立ったかについて尋ねたところ、役に立ったと答えた者は69%、時々役に立ったと答えた者は31%で、役に立たなかったと答えた者はいなかった。役に立ったと回答した具体的な内容は自由記述で、4の考察で述べることにする。

2) 本テキストの特に役に立ったと思われる項目について調査した結果(複数回答可)を図1に示す。実習日誌が74%、実習園オリエンテーションが72%、学生による作品(実習用名札・布おもちゃ)が54%、実習指導計画案表が52%、子どもの接し方「学生のヒヤリ・ハツと」が48%、乳幼児の発達段階が46%、ディリープログラム・指導計画の実際例が45%、参考資料・(手あそび・マナー・敬語)が45%、実習事後指導(お礼状)が44%、学内オリエンテーションが43%、巡回指導教員挨拶・学外講師講話が34%、保育者に求められる資質が33%、実習指導計画・日程表が25%、保育実習の理解が24%、実習の種類・資格が18%、その他・参考資料(漢字・自己紹介の仕方)が18%、実習生のための保育評価が15%、課題について12%、自分を高めるために(人生訓)が11%。

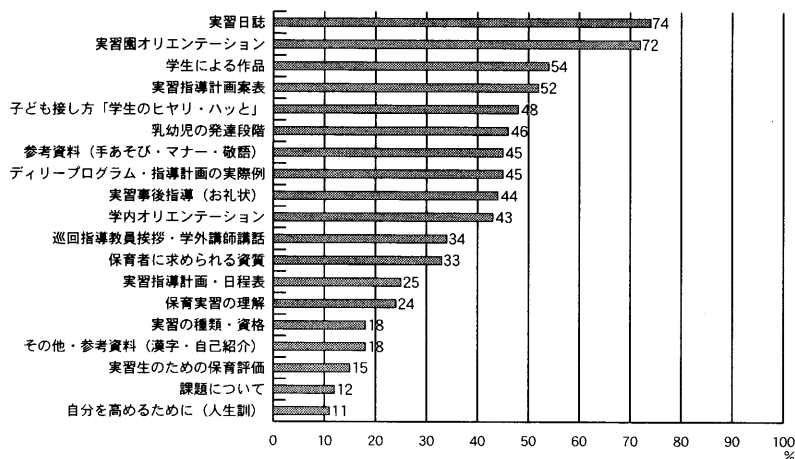


図1 特に役に立ったと思う項目

3) 実習の日程計画の理解について尋ねたところ、図2で示すように、理解できたが89%、どちらとも言えないが11%で、理解できなかったと答えた者はいなかった(図2)。

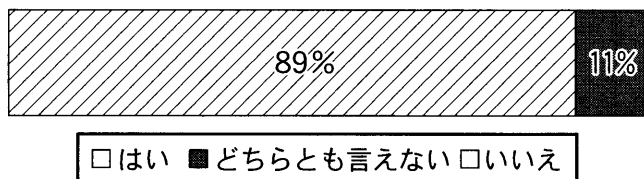


図2 実習の日程計画は理解できましたか？

4) 電話のかけ方の理解について尋ねたところ、図3で示すように、理解できたは96%、どちらとも言えないが4%、理解できなかったと答えた者はいなかった(図3)。

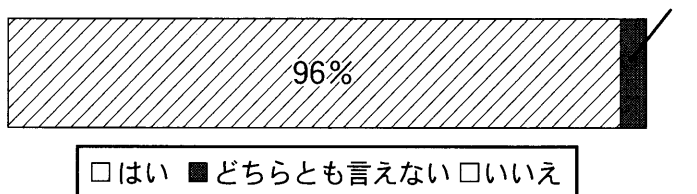


図3 電話のかけ方は理解できましたか？

5) 実習の事務手続き(書類)についての理解について尋ねたところ、理解できたは78%、どちらとも言えないが22%、理解できなかったと答えた者はいなかった(図4)。

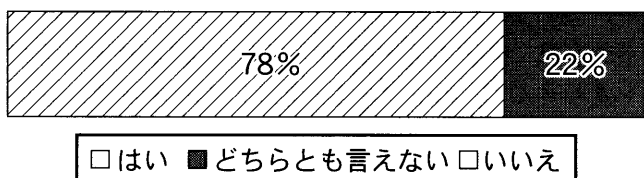


図4 実習の事務手続きについての理解はできましたか？

6) 保育所実習指導テキストであったが、教育実習(6月)にも利用するのかについて尋ねたところ、利用するは90%、どちらとも言えないが10%、利用しないと答えた者はいなかった(図5)。



図5 教育実習(幼稚園実習2年次6月)にも利用すると思いますか？

7) 下記の実習で利用し、これからの実習でも利用するかについて(学外保育所実習以前に付属幼稚園・付属保育園で実習体験済み)尋ねたところ、1・付属幼稚園実習で役に立ったと答えた者は75%、役に立たなかったは22%、無回答3%であった。2・附属保育

園実習で役に立ったと答えた者は81%、役に立たなかったと答えた者は16%、無回答3%であった。

3・学外保育所実習で役に立ったと答えた者は98%、役に立たなかったと答えた者は2%であった。

4・6月の学外幼稚園実習でも利用するかについて尋ねたところ、利用するは96%、利用しないは3%であった。5・8~9月の施設実習でも利用するかについて尋ねたところ、利用すると答えた者は94%、利用しないと答えた者は4%であった(図6)。本テキストを4月のオリエンテーション時で配布するが、4~5月は教育実習指導(附属幼稚園)が続くため、利用する頻度が低く、その後の保育実習指導において本テキストを使用した授業に入るため、実習指導以後の実習においては役に立ったり、利用したりする頻度が高くなることが分かった。

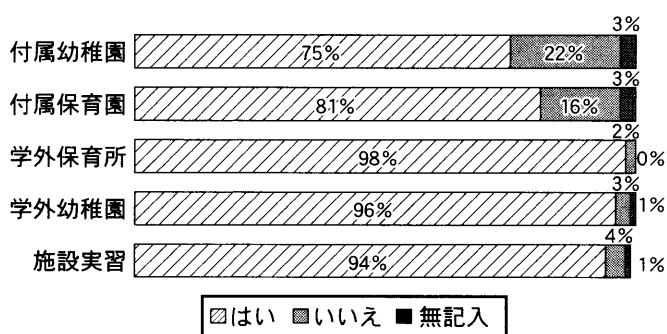


図6 下記実習で利用したり、これからの実習で利用しますか？

8) 上記の質問で役に立った・利用すると答えた者に、項目①から⑩を(複数回答)尋ねた結果を図7で示す。

保育実習の理解が9%、実習計画・日程が7%、実習の形態・計画が10%、学内オリエンテーション(電話の掛け方・事務手続き)が21%、実習園オリエンテーション(注意事項・聞いてくるもの)が43%、課題については9%、乳幼児の発達段階が33%、ディリープログラム・指導計画の実際例が30%、実習担当者へ挨拶・学外講師講話が18%、保育者に求められる資質は25%、実習日誌の記入が51%、子どもへの接し方・「学生のヒヤリ・ハツと」が47%、実習事後指導(お礼状・実習後の書類・自己評価・成績評価のフィードバック)が31%、その他・参考資料(よく使う漢字・復習しょう)が14%、実習生のための保育評価85が9%、参考資料(マナー・敬語の使い方)が28%、自分を高めるために(人生訓いろいろ)が8%、学生による作品(実習用名札・布おもちゃ)が14%、実習指導計画案表が32%であった。実習日誌については今回も首位を示しているが、今回は子どもの接し方・「学生のヒヤリ・ハツと」が高い割合を示している。実習期

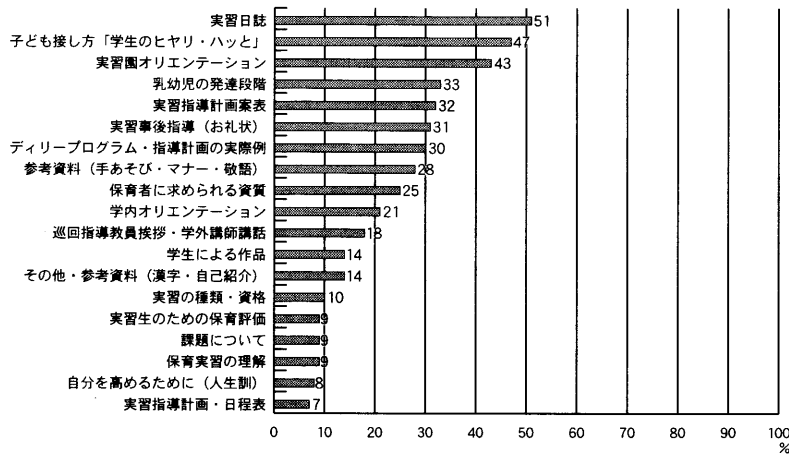


図7 利用すると答えた方、特にどの項目を利用しますか？

間中に多少なりとも危険な場面に遭遇していることが分かる（図7）。

9) このテキストで理解しにくい箇所（項目）について尋ねた（複数記入可）ところ、1・お礼状の書き方をもう少し詳しく書いてほしかったが5%、2・文章が多かったので（厚かった）見るとき解りにくかったが2%、3・内諾書の形式だけでなく、実際に記入したものを載せてほしかったが1%、4・日誌の書き方が解らなかったが1%であった。

10) このテキストで書き加えて欲しいものを尋ねたところ、書き加えて欲しいものがあるが15%、書き加えて欲しいものはないが85%であった（図8）。

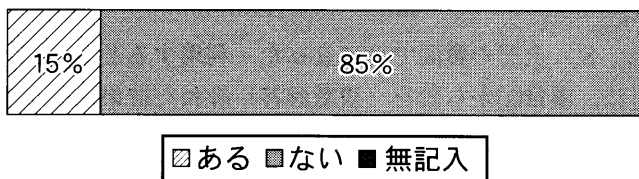


図8 テキストに書き加えて欲しいものはありますか？

書き加えて欲しいものが有ると答えたものの内容は、

1. 指導案表をもっと多くして欲しいが 2%
2. 実践的なやり方（乳児保育）が 1%
3. 日誌の書き方をもっと詳しくは 1%
4. お礼状の書き方（文章例）を多くが 10%
5. ペーパーサートのストーリーなど載せて欲しいは 1%

であった。

11) このテキストで使いにくかった箇所について尋ねた（複数記入可）ところ、

1. 実習事後指導（お礼状など）が 2%
 2. 項目が多く探すのに大変だったが 1%
 3. 表は学校提出用と裏は学生保管用が 1%
 4. 提出用レポートの裏は白紙が良かったが 1%
- であった。

12) この「実習指導テキスト—保育所実習—」をもらって利用した感想を尋ねたところ、92%が記入、無記入8%であった。内容は4の考察に記述する。

4、考 察

本学の学外実習については、施設実習Ⅰ・Ⅱは2年次8～9月に実施する。学外幼稚園実習は2年次6月に実施し、本学での学外実習は保育所実習Ⅰ・Ⅱが最初となり、実習に臨む学生にとって楽しみや不安もあり、忍耐と努力を必要とするものである。

実習に関する学生の不安意識についての先行研究は多い。鈴木・仲本⁴⁾らの調査結果として、1年次の実習前には100%の学生が不安を感じていると報告している。また、長谷部⁵⁾は実習不安の水準が高いほど、実習を回避・忌避する感情も強いことを調査結果で明らかにし、保育者養成教育に携わる者として、何とかそうした学生の不安感が少しでも低減され、貴重な実習経験に期待や希望を持って臨むことができるような事前指導を行いたいと強く思うと述べている。

このような観点から、本学独自の「実習指導テキスト—保育所実習—」を作成した。豊かな保育指導者としての資質を高めるために、以下の理念に沿った内容とした。内容については建学の精神をはじめとして、実習指導の基本的事項、実習の事前事後指導、自己評価反省、その他を盛り込んだ。形式は学生参加型とし先輩学生、現場からのアドバイス、実習後のアンケート調査、学生による作品の紹介などを含め、専門的内容にとどまらず礼儀作法を含む一般的領域までを包括する内容をもって学生のニーズに合った編集をした。A4サイズで総ページ数は231ページである。

アンケート調査の結果、テキストが役に立ったかとの問いに対し、①はい②時々で100%となり、殆どの学生が役立っていると回答していた。その理由として、困った時、迷ったとき、方法など細かく詳しく書いてあったので参考になった。・テキストが有ったおかげで、いろいろなことに活用できた。・分からないことが全て書いてあった。・悩んだ時に読むと解り易く書いてあった。・どんなふうになれば良いかが分かりやすかった。・1冊にまとめてあったので、調べるとき便利であった。・実習中に分からないことが有ったが、テキストが有ったから良かった等の意見があった。2)の役に立った項目と8)の今後の実習でも参考にするかの項目を比較すると、実習日誌の書き方、実習園オリエンテーション、子どもの接し方「学生のヒヤリ・ハット」、実習指導案表は双方ともに第5位までに入っており、3)に学生による作

品（名札・布おもちゃ）、8）に乳幼児の発達段階が加わっている。これはT市の公立保育所の資料で、0歳から5歳までの乳幼児の発達段階を的確に解り易くまとめであり、理解を深められたのではないかと思われた。第1位は双方ともに実習日誌の書き方であった。実習日誌について、相馬・中田⁶⁾らは、実習に行った学生たちに、「一番大変だったことは？」と聞くと「実習日誌を書くことだった」という答えが返ってくる人が多いと言っている。また、実習日誌の記録時間等の先行研究⁷⁾の調査結果として、実習時間が9時間の実習記録を記入するのに、その半分以上の時間を使用して記入しているのは、保育園や幼稚園では28.1%と26.6%と述べ、日誌記入でいかに長時間を費やしているかがうかがえる。質問の3)はコースにより日程が異なること、4)は電話の掛け方で、実習を断られたケースがあったこと、5)は実習事務手続き（書類）の複雑さがあるため、特に取り上げた項目である。

質問6)、7)、の2年次6月の教育実習や8・9月の施設実習は、90%以上がテキストを参考にすると回答している。12)の感想では、学外実習で先生に聞けないとき、参考になることが多かった。・何をどうしたら良いか分からないとき、何でも書いてありとても力強かった。・実習中、困ったときなどテキストを見て勉強ができた。・各実習のたびに、もう一度確認のためにも利用できた。・分かりやすく書いてあったので、あまり困らずに何事も進めたと思う。・実習に行く前の不安なときに、とても役に立った等と、92%の学生が参考になった、理解し易かったと記述していた。また、35名がテキスト全体の内容について回答し、その他の項目についても挙げ、自由記述として117件挙げられていた。

以上のことから、保育所実習期間中の学生からの電話（筆者の携帯番号を公開している）も減少した。今回の調査結果の学生意見を取り入れた改訂版を平成20年3月に編集した。

5、ま と め

今回の調査結果から、本テキストを授業で使ったことで、ほとんどの学生が授業理解ができていた。実習期間中も利用し、他の実習でも活用すると回答していた。これは厚労省が提示している「保育実習の目的」や「全国保育士要請協議会委員会—保育所実習ミニマムスタンダード—、2005⁸⁾」で、実習事前・事後指導の標準的基準としての視点で挙げている項目のひとつ、「学生の主体的な学習が次の学習に連動・継続すること」と一致している。そのためテキスト使用の授業効果は有意性があったと判断する。

今後、改訂版テキストの使用や「保育所実習指導のミ

ニマムスタンダード」対応の教科書を併用し保育実習指導を充実していく。

（付 記）

- 1) この大要は「日本乳幼児教育学会第18回大会」平成20年11月29日(土)・11月30日(日)で発表したものである。
- 2) 実習指導テキスト作成は、大学教育高度化推進特別経費「平成18年・平成19年度継続—教育・学習方法等改善支援」の補助を受けたものであることを報告する。

注) <教務課資料>変更理由として、保育所（2週間・2単位分）と施設（10日間・2単位分）の実習では、実習施設、実習の目的、内容が異なるため、それらに依じて評価する。また、いずれかの実習ができなかった学生に対して、その部分だけを実習させることが可能となり、便宜が図られる。

参考文献

- 1) 幸 順子、秋田房子；保育実習における手引き作成に関する研究、名古屋大学紀要第53号、2007
- 2) 豊永家壽子；実習の事前・事後指導の充実のための試み—保育研究会の学生と共に求め続けたもの—、別府大学短期大学部紀要第24号、2005 P91～98
- 3) 竹内理恵、那須信樹；『保育実習指導のミニマムスタンダード』による保育所実習指導方法の提案—学生の「実習評価票」の考察から—、中村学園大学・中村学園短期大学部研究紀要第39号、2007
- 4) 鈴木香奈恵、仲本美央；幼稚園教育実習に関する研究Ⅰ—実習前の不安感について—、埼玉純真女子短期大学紀要第21号、2005、P39～44
- 5) 長谷部比呂美；保育実習に関する学生の意識について—実習不安を中心として—、淑徳短期大学紀要第46号、2007
- 6) 相馬和子、中田カヨ子編；実習日誌の書き方、萌文書林、2005
- 7) 倉戸直美；教育実習保育実習の分析—勤務時間・実習記録時間・通勤時間・睡眠時間について—、大阪芸術大学短期大学部紀要第27号、2003
- 8) 全国保育士養成協議会委員会、保育士養成資料第42号 効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ —保育実習指導のミニマムスタンダード—、2005